8月24日発売

あの名曲が甦る！ ひまわり

叶竜也

あのソフィア・ローレン、マルチェロ・マストロヤンニの名作『ひまわり』の主題歌を今、歌う、叶竜也とは…

作曲・編曲家 松井タツオ

この曲を聴いて振り向く人は、だいたい年恰好が似たような感じで、目があえば、ニッコリ頷きそうな気がします。

あのひまわり畑一面のスクリーンに流れた、ヘンリー・マンシーニの名曲『ひまわり』は、昭和の、いや20世紀最上の、心に残る、悲しくも美しいメロディです。不思議なことに、日本ではこの曲が歌曲としてヒットした記憶はありません。あくまでサウンド・トラックの名曲として、またピアノのイージーリスニング曲として流行ったようでした。

それを今回、叶竜也が歌う経緯について少しお話しさせて頂きます。

若い時から、カラオケ大会では軒並み入賞し、日本クラウンの全国大会グランプリで優勝してプロデビューした叶竜也も来年20周年。歌謡界は今、世の中の変遷の中でCDが売れなくなり、叶竜也もコロナ禍に埋もれて消えかけていました。

しかし、もうこれが最後と思い、『ブーゲンビリア』という花をテーマにした歌を2020年、コロナ禍の中でリリースしてから、運命が動き出しました。

デビュー以来、歌謡曲や時には演歌も歌ってきましたが、自分の個性をうまく発揮できずに、アマチュア時代の受賞歴だけが光るプロフィールの持ち主でした。しかし、コロナ禍で何も活動が出来ない中で始めたYouTubeチャンネル「叶竜也の花はどこへいった」では、花にまつわる名曲を、ジャンルを問わずに採り上げました。またそのヒットの秘話を月刊歌の手帖の野上政幸氏と紹介しています。そして毎回私のギター1本で、花を題材にした名曲を生歌で披露するわけですが、この名曲カバーが叶竜也に微妙な歌い方の変化をもたらせました。

「誰もが知っている大ヒット曲をいったいどう歌ったらいいものか…」

オリジナルの一字一句を何度も聴いて、自分なりの言葉に対する声の作り方を考え、叶竜也の声の響きを改めて作って行ったのです。そして14回目の曲を探している最中、野上さんから『ひまわり』に詞を載せて歌ったらどうか、という提案があり、それから一気に動き出しました。

外国曲なのでかなり制約もあり、紆余曲折しましたが、クラウンミュージックの皆様のご尽力により、どうにか発売にこぎつけました。

一言で言えば、叶竜也は〝本格派シンガー〟の道を歩きだしたのです。

昭和の時代には、プロでしか出せない鍛えに鍛えた響きの声を持つ、素晴らしい本格派シンガーがたくさんいました。カラオケが主役の今の歌謡界は、みんなキレイな声の持ち主ですが、ひと声聴いて、なかなか誰だかわかりません。

番組のスタジオで叶竜也が歌う『ひまわり』を聴くとすぐ、野上さんが「これCDで出そう！」と。異を唱える人はいませんでした。それだけ彼は見事に、自分のものとして歌いきったのです。

まだ〝本格派シンガー〟の道ははじめの一歩です。先は遠く果しないでしょう。しかし彼は自分で見つけたのです。20周年、そして30周年が本当に楽しみです。

私もだいぶ齢を重ねましたが、一緒に歩んで行くつもりです。

YouTube番組「叶竜也の花はどこへいった」
https://youtube.com/channel/UCOhotdHbUtSv4pR53ZwWmMA